

平成28年度 事業報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

特定非営利活動法人親子の未来を支える会

1 事業の成果

平成28年度は、NPOの認知度を上げ、広く市民一般の理解と協力を得る基盤づくりを行なった。フェイスブックを通じての情報配信、ホームページを利用しての寄付金受付窓口の作成、賛助会員募集などを行った。ホームページ上の障がい者家族支援窓口を通して、複数の家族からサポート依頼があり、それぞれに対し直接ないしは電磁的媒体を通してサポートを行なった。

また、オンラインピアサポートシステム「ゆりかご」のリリースを行なった。

平成27年度に引き続き、一般参加型のワークショップを複数回行い、患者自身、医療者、行政など、多様な方々に参加していただいた。他団体が運営するメディアに関する監修を行なった。いずれも、市民の理解を深めるものであると同時に、胎児診断（出生前診断）・障がい者医療に関するサポート・啓発事業の重要さを改めて感じるものであった。

2 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
(1) 胎児診断・障がいに関する情報提供・情報収集事業	障がい/胎児診断/胎児治療に関する講演、障がい者サポートに関する視察や当NPOの活動報告など合計7回の講演などを行う。	平成27年11月11日、11月12日、11月22日など	社会福祉法人森と木など講演開催場所	1～3名	一般市民、障がい者、障がい者家族、医療者、胎児医療に関する医師、看護師等 計のべ500名程度
(2) 障がいに関するカウンセリング事業	オンラインピアサポートサービス「ゆりかご」開発・β版リリース	適宜	インターネット上や団体事務所	50名	一般市民、妊婦、これから生まれる子供たち、胎児医療に関する医師、看護師等 計のべ50名程度
(3) 胎児医療・障がい者医療に関するサポート事業	22q11.2欠失症候群・ダウン症候群・先天性心臓病 上記に対するサポートセンター立ち上げ・運営	適宜	団体事務所、患者会の会合等	9名	一般市民、妊婦、これから生まれる子供たち、胎児医療に関する医師、看護師等 計のべ100名程度